

# 地域活動専門員日誌

## 宮守小の児童へ 防犯ブザーを寄贈



防犯ベルの使い方を指導中



千葉孝造さん

普段から一緒に活動している宮守地区防犯協会(佐藤一紀会長)が、宮守小学校(児童98人)に防犯ブザーを寄贈しました。子どもたちを犯罪から守ろうと、宮守小へ防犯ブザー105個を寄贈。最近さまざまな地域で子どもたちの連れ去り事件などが起こっており、これを未然に防ごうと同協会と対策を考えていました。その結果、防犯ブザーを装着してもらい、いざというときに役立ててもらうことにしました。今後も同協会と協力しながら、犯罪のないまちづくりに努めていきます。

## フェイスブックで 地域の情報を発信中！

小友地区センターの佐藤俊裕さんと宮守地区センターの家富万里さんの両地域活動専門員が、インターネットを使って交流などができる「フェイスブック」で、地域の普段の出来事や魅力をすばやく発信しています。ぜひ、ご覧ください！

### ◆小友

<https://www.facebook.com/XiaoYouShu.otomoyjuku?fref=ts>

### ◆宮守

<https://www.facebook.com/miyamoricho.tono>



宮守のQRコード

1\_新規就農者や講師など参加者全員で記念撮影 2\_講師のアドバイスのもと、トマトの苗を植え方を学ぶ参加者 3\_肥料のまきかたのポイントを説明する講師。参加者は質問したりメモをとったりして理解を深めた



## さあ、農業を始めるぞ！

新規就農者の研修会開催

就農者を対象とした市の研修講座「遠野ふるさとめぐりスクール」は5月22日、夢産直かみごうの農園で開催されました。参加した13人は農作物の植えつけなどの基礎知識を学びました。同スクールは平成23年から始まり、作業を体験するコースの開催は今回が初めて。参加者はトマトやピーマンなどの種や苗の効率的な植え方、肥料の使い方などに理解を深めました。親子で参加した大森友子さんと忍さん(土淵町)は「理論的に教えてもらったのでよく理解できた。今後の作業に生かしたい」と満足した様子でした。



## 遠野の魅力みんなで発見

ふるさと発見探偵団開催

遠野の自然や歴史を学べる青少年活動「青少年ふるさと発見探偵団」(遠野市教育文化振興財団主催)は5月19日、鍋倉公園などで行われました。参加した児童25人と高校生ボランティアやアフリカ人ボランティアは、ゲームやレクリエーションを楽しみました。

児童たちは5班に分かれて体育館での英語クイズや、鍋倉公園周辺に設置されたクイズを解きながらゴールを目指すウォークラリーに挑戦。菊池柊季君(宮守小5年)は「歩くのは疲れたけど、風も気持ちよく、クイズも楽しかったです」と交流を楽しめた様子でした。

1番目指して出発だー！



1\_ウォークラリーのスタート地点から勢よく飛び出す児童たち 2\_班で協力しながら樹の太さを計る 3\_アフリカからのボランティアも児童たちと一緒に楽しんだ



1\_3年分の思いを込めて市内を練り歩く参加者 2\_参加者は着物や袴などを身にまとい当時は再現 3\_南部神社では入部式が厳かに行われました 4\_郷土芸能共演会などでにぎわう会場

## 南部氏の国替え華やかに

入部行列3年ぶりの開催

約380年前に八戸から遠野へ国替えになった八戸南部氏の入部の様子を再現する「南部氏遠野入部行列」(遠野町地域づくり連絡協議会主催)は5月3日、蔵の道ひろば周辺で開催されました。遠野さくらまつりのメイン行事として毎年開催していましたが、平成23年は震災、昨年は雨のために中止。参加した230人は、国替え当時に再現した衣装を身にまとい、3年分の思いを込めて市内を堂々と練り歩きました。復興支援ボランティアや本市と交流のある八戸市新田城まつり運営委員会も参加。沿道ではしし踊りなども披露され、訪れた市民や観光客は華やかな行列に見入っていました。



## 花より「団子」のお花見会

日枝神社で合同お花見会

遠野町の住民と仮設住宅住民、被災地支援活動を展開する遠野まごころネットなどは4月29日、日枝神社で合同お花見会を開催しました。仮設住宅やまごころネットの拠点のある周辺の住民、同ネットが互いに交流を深めようと初めて開催。当日はサクラは咲いていませんでしたが、好天に恵まれほかほか陽気。100人の参加者はジンギスカン鍋を囲み、遠野高邦楽部による琴の演奏などを楽しみました。仮設住宅に住む越田幸宏さん(大槌町)は「こんなに大勢でのお花見は初めてでとても楽しい。今後もこのような催しがあれば参加したい」と交流を満喫していました。



さまざまな団体が一堂に集まったお花見会



それぞれの職種の立場で、意見を交わす女性パネリスト

## 女性の視点で復興を支援

あえりあで復興女子会議

復興支援に携わっている女性の視点で意見を交わす「復興女子会議」(岩手若手会議主催)は5月25日、あえりあ遠野で開催され、参加者80人はそれぞれの立場で意見し、復興支援へ心をつなげました。女性の復興支援の現場にスポットを当てようと初めて企画。県内に1ターンした女性や起業した女性など7人のパネリストが討論したほか、参加者からもメールで意見を集約し、会場全体で課題などを共有しながら復興へ理解を深めました。鈴木理美さんは「共感できることが多く、同じ立場の人たちがいると心強く感じました」と話していました。